

ネットワークアンケート ③⑤

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院では、腎症を発症していない糖尿病患者さんへ腎臓の検査を定期的に行っていますか？

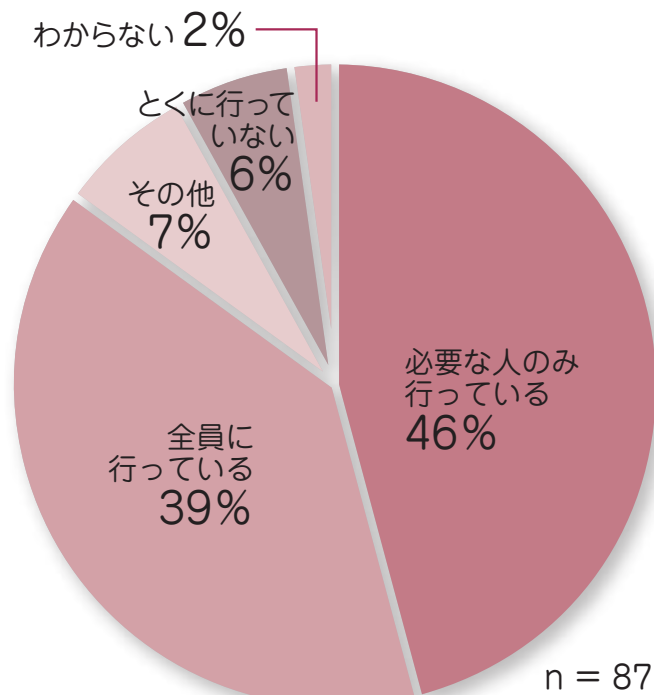
最新の統計によると、糖尿病性腎症が原因の透析患者さんは約11万人おり（透析患者の44%）、前年度は1万7千人の糖尿病患者さんが新たに増えたそうです。昨春から透析予防指導に対する診療報酬が新設されて、積極的な腎症予防・指導が期待される医療スタッフと、患者さんの意識について現状を伺いました。

[回答数：医療スタッフ87名（医師17、看護師27、管理栄養士30、臨床検査技師4、薬剤師3など。うち日本糖尿病療養指導士38）、患者さんやその家族272名（病態/1型糖尿病93、2型糖尿病170、糖尿病境界型1、その他8、治療内容/食事療法205、運動療法177、経口薬140、注射薬17、インスリン療法154/重複回答有）]

「全員に行っている」としたのは39%、「必要な人のみ」では46%と分かれ、比較的発症の可能性が高い患者さんに絞って行われている傾向が見受けられました。そこで、腎症患者さんの割合を伺ったところ、回答した医療スタッフの4割が、通院中の糖尿病患者さん全体の2~4割に腎症があると、2割が患者さん全体の4~6割いと実感されており、腎症患者さんは高確率で存在する現状がうかがえます。

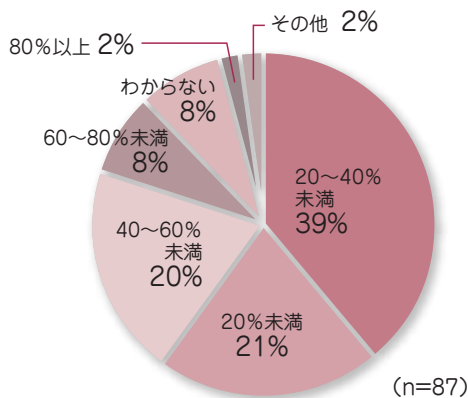
続いて、新設された「透析予防指導管理料（350点）」の運用状況について伺いました。算定を開始しているのは、回答者が勤務する医療機関の3割強で、準備中の施設

を含めても半数弱でした。ただし、合併症予防のための指導は従来から行っている施設が多く、算定していない＝指導していないとは言えません。このような中、この評価によって、指導内容や体制の変化があったと答えた方に、どのような変化があったかをたずねてみました。すると、「指導方法・内容を改良した」が50%、「指導にとられる時間が増えた」が41%、「患者さんのモチベーションが上がった」が39%と、上位でした。

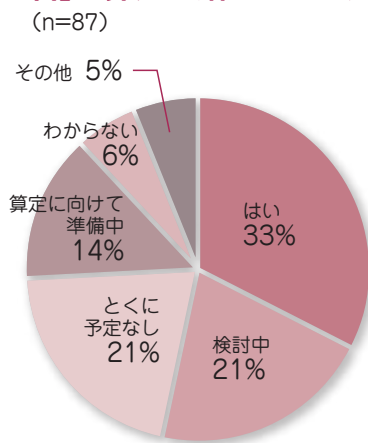


自由記述では「透析予防に特化することで、これまで腎臓に関心がなかった患者の中にも関心を持つ人が増えた」「進行が遅く、効果も分かりにくいいため、指導側の熱意がなければ予防効果よりも点数取りだけに終わってしまいそう」「患者さんにとって千円アップは大きいと思う。従来と変わらぬ内容だと指導料をとりにくい」など様々な意見がありました。

Q. 「糖尿病性腎症」のある方は、通院中の患者さん全体のうちどれ位と思われますか？



Q. 貴院では「透析予防指導管理料」の算定を始めていますか？



Q. 「透析予防指導管理」の評価により、どのような変化がありましたか？ (n=44 無回答43)

- 指導方法・内容を改良した……………50%
- 指導にとられる時間が増えた……………41%
- 患者さんのモチベーションが上がった…39%
- 指導回数を増やした……………36%
- スタッフのモチベーションが上がった…32%
- 指導対象者を増やした……………30%
- 仕事が増えた……………27%
- 講習会参加や勉強する時間が増えた…25%
- 関連他科とのコミュニケーションが増えた…23%